

福祉と交通の連携

～くらしの足を「ヒト」と「交通」と「制度」でつなぐ～

地域交通部会 清水弘子

認定NPO法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク

関東運輸局 地域公共交通マイスター

なぜ「福祉と交通」なのか

■福祉有償運送

地域の「たすけあい活動」として徐々に広がる。

2003年、構造改革特区⇒2006年、道路運送法「福祉有償運送」として位置づけられる

【病院に行けない】

・駅やバス停まで歩けなくなって(歩行困難)
・ひとりでの立つこと、数歩歩くことも困難になって、

→公共交通では病院に行けない。

→家族では、支えられない。

●もっと早く移動サービスを知っていれば、夫を入院させずに家で見守ることができた。行きたいところへ連れて行けた。家族とのおでかけもできたのに。

【ちょっとしたお出かけ】

●リウマチの手術後、ほとんど寝たきりだった40代女性。

晴天のもとのお花見で、車いすに乗って空を見上げて「空が青いねー」と深呼吸。

それから、美術館、ディズニーランドなどへもおでかけされた。

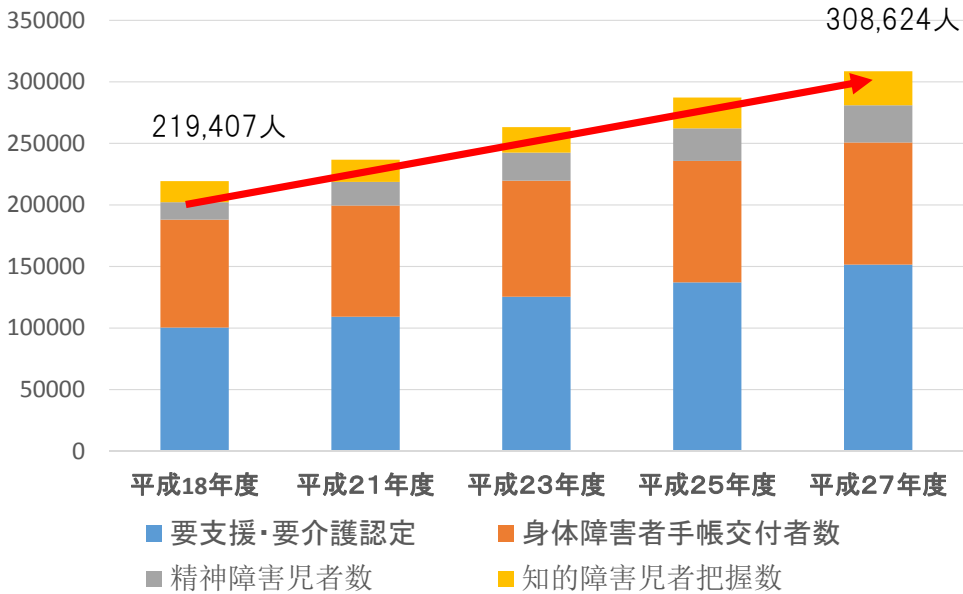
●80代女性

病院の帰りにスーパーでお買い物。

「手に取ってモノを選ぶのは久しぶり」高揚感が伝わってくる。

⇒ どういうサポートがあれば出かけられるか

移動困難者数の推移(横浜市)

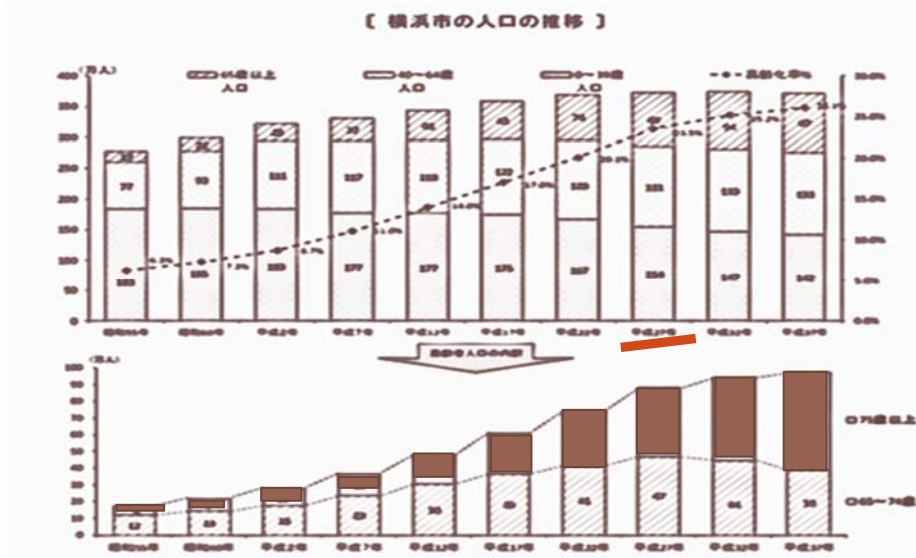


■横浜市人口
 H 18年 3,607,125人
 ↓
 H 27年 3,709,467人
 (102.8%に増加)

■移動困難者数
 H 18年 219,407人
 ↓
 H 27年 308,624人
 (140.6%に増加)

データで見る 横浜の高齢化

都市交通課資料 高齢化&後期高齢者の増加



■高齢化率は
 平成27年 23.5%
 平成37年 26.1%
 予測

■65才以上の高齢者の割合
 前期高齢者よりも
 後期高齢者の割合が
 増加する傾向にある。

もう1つの移動困難 ～地域で起こっていること～

■交通不便地域（駅まで遠い、バス停から遠い、急な坂で行けない）

「A」地域ケアプラザ地区(6地域)



■社会的・環境的要因

高低差(山・急坂など)がある、駅から遠い、路線バスの撤退、大型店の進出で地域の商店の廃業。。。

●駅から近く平坦な地域は、スーパーやコンビニも多く、スポーツクラブ等の地域で活動できる場所が近くにある。

●一方、それ以外の公共交通機関から500m以上離れている地域は、社会参加や外出がしにくく、日常的な買い物をする場所も遠いため、早くからサービスを利用している人が多いと推測される。

●2016年までの5年間で要支援の申請数の伸び率が区内で1番多かった。

もう1つの移動困難 ～地域で起こっていること～

■介護予防施策サポートに参加しているの結果から…

【高齢者実態調査】

| | 市町村平均 | 同 ケアプラザエリア |
|----------------------|-------|---------------------|
| 閉じこもり割合が高い | 0.032 | <u>0.085</u> (区内1番) |
| 1日の平均歩行時間が30分未満の者の割合 | 0.189 | <u>0.22</u> (区内2番) |
| 要介護認定者数 | 1.334 | <u>1.928</u> (区内2番) |
| IADL(自立支援低下割合) | 0.065 | <u>0.123</u> |

- 今後、介護保険の改正により、支援レベルの方のサービスが抑制されると、より参加(通所)の場が減り、要介護への移行(重度化)が進むことも予測される。
- 要支援1・2の人の行き先と移動環境が充実すれば、社会参加・買い物・通院もしやすくなり、それが介護予防につながり、早くから介護保険サービスを使うことはなくなるのではないかと考えている。
(包括支援センター 談)

もう1つの移動困難 ～地域で起こっていること～

交通不便地域（駅まで遠い、バス停から遠い、急な坂で行けない）



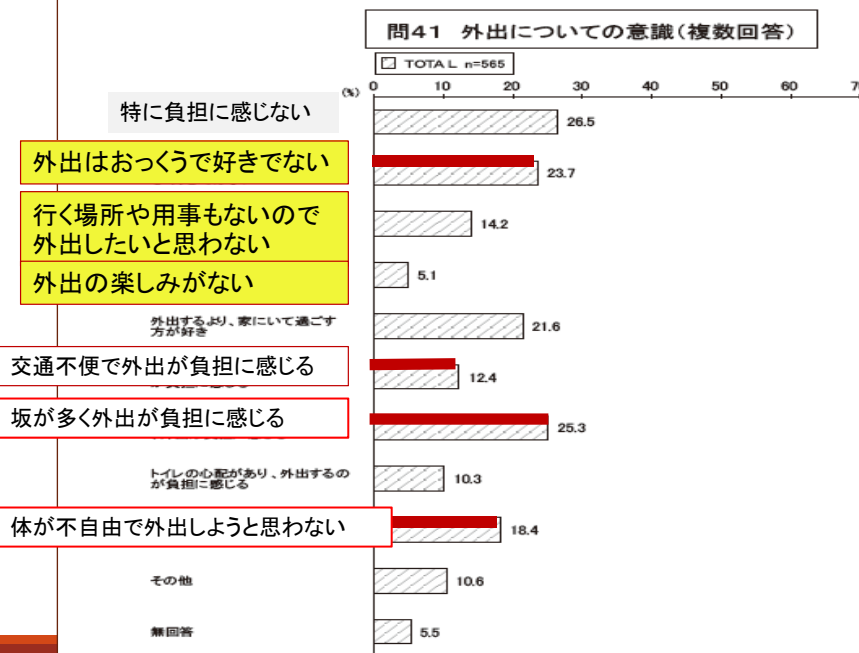
事例として

- ケアプラザで行う体操教室に来る人が減ってきた。
- 独居高齢者のために開催するふれあい昼食会の参加者が地域によってばらつきがある。坂のキツイ地域は参加者が少ない。
- ➡ そこで、クルマで送迎したところ参加者が倍増した。(10名前後➡26人)

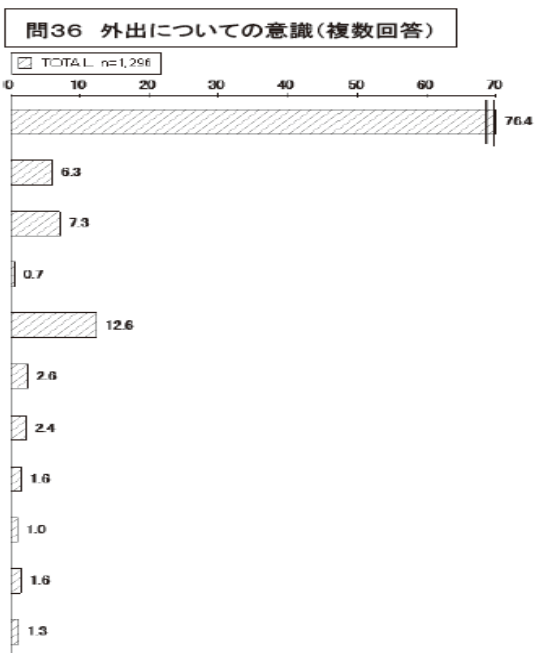
■ 「外出に困っている？」の問いに「困っていない。出かけないからわからない。」という答え。(要支援レベルの方)

高齢者調査から見えること 横浜市高齢者実態調査H26

要支援



一般55～64歳



くらしの足を「交通」と「ヒト」と「制度」でつなぐ

➤ふれあい昼食会の参加者が増えた

クルマ送迎＋お誘い(お隣さん・地域の人や民生委員さん)

➤有償運送を使ってお買い物に行く

クルマ送迎＋付き添ってくれる人

➤住民バスを活用する

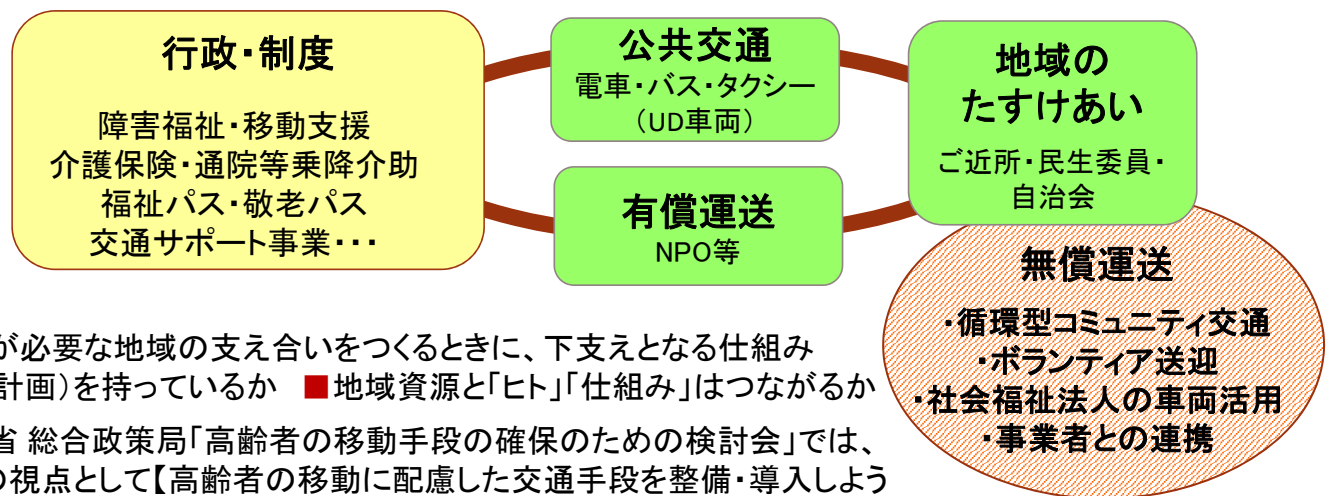
クルマの定路線・地域循環運行(分かりやすい)
＋地域の声かけや知った顔がいる(安心感)＋『私たちの』という所有感

➤通院・通学・通所
(高齢者・障がい者)

付き添ってくれる人(ヘルパーの不足)

料金(制度対応できるか)

くらしの足を「交通」と「ヒト」と「制度」でつなぐ



■住民が必要な地域の支え合いをつくる時に、下支えとなる仕組み(交通計画)を持っているか ■地域資源と「ヒト」「仕組み」はつながるか

■国交省 総合政策局「高齢者の移動手段の確保のための検討会」では、検討の視点として【高齢者の移動に配慮した交通手段を整備・導入しようとする自治体を支援するためのわかりやすいガイドラインを作成できないか】を挙げた